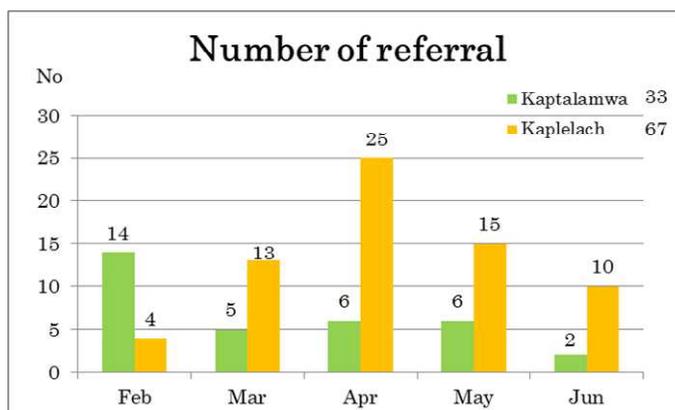


2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	対象地域においてコミュニティの健康が向上する
(2) 事業内容	<p>ケリチヨーカウンティ内、ケリチヨーイースト及びウエストサブカウンティにおいて、コミュニティを中心としたヘルスケア・システムが機能することを目指し活動している（3年間で予定）。</p> <p>1年次はケリチヨーイースト・ソイン地区において、CHV、CU及び地域住民、県保健行政の能力強化を図り、コミュニティが主体となって健康問題を解決する持続的なヘルスケアの仕組み作りをめざし活動しており、今期の具体的な活動としては、ソイン地域のCHVが自覚と自信を持って主体的に活動できるよう、一人一人の能力向上に焦点を当て、また行政・学校・CHV・住民への働きかけ、各種保健キャンペーンやモバイルクリニックの実施等を通じ、地域の健康問題への認識と関心を高める活動を中心に実施した。本年2月初めより6月末までの5か月間の活動内容は以下のとおり。</p> <p>なお、活動実施においては、先行事業で築いてきた保健省との強固な協力関係と信頼関係をもとに、県保健局長や県公衆衛生官長と緊密に協議、報告を行いながら進めており、現在のところ、ほぼ計画どおり進捗している。</p> <p><事業内容></p> <p>(ア) 「ソイン地域 CHV の知識と技術の強化」へ向けた活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 月例会議／Monthly Dialogue Day (MDD) <ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識習得の研修を受けたソイン地域の約80名のCHV（カプレラッチ地区50名・カプタラムワ地区30名）を集め月に一度集会を開催。毎月の参加を促し、活動レポートの提出を義務化した。 ・ CHV プレ・ポストレベルテスト作成／CHV Pre-Post Level Test (Making/Implementation) <ul style="list-style-type: none"> CHVの現在の知識能力を図り、不足している情報や知識を把握し、今後の研修に反映していくことが目的のテスト。現在テスト(案)作成中。 ・ 啓発教材の開発／Development of teaching materials (portable materials as picture-card slide) <ul style="list-style-type: none"> 健康状態のチェック項目、病人を診療所へ紹介する際の根拠を確認できる携帯本、紙芝居等の携帯可能な啓発教材の開発中。 <p>(イ) 「県保健行政からCUへのモニタリング、情報利活用の改善」へ向けた活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ CHVからCHEWへのデータ収集レポート提出／Report submission for the collecting date from CHV to CHEW ・ CHEWからFocal Personへのレポート提出／Report submission from CHEW to Focal Person <ul style="list-style-type: none"> CHVが収集した情報を、県保健行政から任命された看護師または保健師が務めるスーパーバイザー（CHEW: Community Health

	<p>Extension Worker) に報告し、さらに CHEW から県保健行政 (Focal Person) に報告がなされる仕組みを構築するための活動。前者については MDD の場を活用して実施し、後者については報告を義務化し、その際プロジェクト側にも報告をするよう依頼した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ データ収集ツールの改訂／Improvement of data collection tools (H513/H514 台帳) 保健省から支給された、各家庭の健康状態を把握するための記録台帳 (H513/H514 台帳) を、地域の実情やニーズに沿った summary sheet paper の形に改訂した。現在 CHV がそのシートを試行中 (6 月末まで)。7 月より改訂版配布 (予定)。 ・ CHV モニタリングツールの開発／Development of CHV monitoring tools スーパーバイザー (CHEW) が CHV を管理・監督するためのモニタリングツールを開発し、このツールを使用して CHEW が CHV ひとりひとりの活動を評価し、月例会議の場や CHV の家庭訪問に同行する際などにフィードバックしていく体制を構築するための活動。現在保健省を中心に開発が行われ、8 月末に完成予定。 <p>(ウ) 「ソイン地域においてコミュニティが健康問題解決策を検討」 へ向けた活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ PCM 研修と活動計画／PCM Training at Divisional Level & Plan of Operation プロジェクト開始にあたり県保健行政官レベルとの問題共有・分析を行うためにプロジェクト・サイクル・マネジメント (PCM) 研修を実施し、その結果をもとに年間活動計画を作成。 ・ 講師のための研修／TOT Training for CHEW (Training of Trainers) プロジェクトに関係する保健省職員 15 名を対象に、2007 年より各地で取り入れられている TOT on Community-Led Total Sanitation (CLTS) 研修 (5 日間) を実施。Open Defecation Free (ODF: 野外排泄の廃止) の実現を目指した研修。この ODF は、トイレへのアクセスがまだ非常に低いケニアにおいて 2011 年よりケニア政府と外部ドナーにより実施されているキャンペーンであり、ケリチョー・イーストサブカウンティでは今回が初めての TOT 研修となったため、大変感謝された。 ・ 学校保健教員会議／School Health Teachers' MTG プロジェクト対象地域内にある小学校において学校保健担当教員を対象とした会議を実施。各学校での保健クラブの設置、保健活動の奨励、および関係者との意見交換を行い、学校レベルでの保健活動を支援。 ・ 学校保健教育活動／School Health Education Activity 対象地域内の小学校にて HANDS スタッフ、保健省職員による保健教育 (授業) 実施。手洗い、歯磨き、トイレ利用等について講義。 ・ モバイルクリニック／Outreach activity (Mobile clinic at 2 places) 地域の保健施設へのアクセスが遠い 2 村で毎月 1 回実施。HANDS
--	--

	<p>スタッフ、保健省職員、ディスペンサリー（診療所）所属看護師、保健省インターンが参加し、予防接種、出産前健診、HIV/エイズのカounselingと検査（VCT）等を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保健省イベント・キャンペーン参加/Participation of MOH Event & Campaign これまでに、Micro-Nutrition（3月）、Malaria Day（4月）、Polio Campaign（6月）に協力・参加。 ・ 合同調整会議/JC 会議 保健省関係者（マネジメントチーム含）を招待しての合同調整会議。本年度のプロジェクト活動計画、保健省の Community Health Strategy について協議。 ・ 住民代表者会議/Gate Keepers MTG 選出された CHV の中で活動が不活発、または中途退任した人の交代について協議する会議を県保健行政、村の長老及び CHV が中心となって実施。CHV からの現状報告や保健行政からのフィードバックの内容に基づき、コミュニティの健康問題についても協議。 																		
<p>(3) 達成された効果</p>	<p>事業開始時より 6 月末までの 5 か月間の活動達成度は以下のとおり。</p> <p>事業により期待される成果が現時点でどの程度達成されたか</p> <p>【成果 1】既存の CHV が自身の役割を遂行できる。</p> <p>【指標と現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● CHV のプレ/ポスト結果の推移 現在、2013 年 6 月に新たに保健省本省から交付された CHVs 用ハンドブックに基づき、CHV Pre-Post Level Test を作成中。最終的に保健局長の承認を得て、試験実施予定（プレ/8 月ーポスト/2015 年 1 月） ● CHV のレポート提出率 7 割以上 <div data-bbox="480 1375 1177 1789" data-label="Figure"> <table border="1"> <caption>Report Submission %</caption> <thead> <tr> <th>Month</th> <th>Kaptalamwa (%)</th> <th>Kaplelach (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Feb</td> <td>63</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>Mar</td> <td>43</td> <td>62</td> </tr> <tr> <td>Apr</td> <td>80</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td>May</td> <td>83</td> <td>54</td> </tr> <tr> <td>Jun</td> <td>57</td> <td>46</td> </tr> </tbody> </table> </div> <p>上記に事業開始時より 6 月末までの 5 か月間のレポート提出率を示す。残念ながら毎月 7 割以上の提出率には至っていないため、今後は、レポート提出の徹底（MDD に出席できない場合には必ず他の参加 CHV にレポートを託す、携帯等電子媒体を使用した提出方法等）を検討したい。</p>	Month	Kaptalamwa (%)	Kaplelach (%)	Feb	63	36	Mar	43	62	Apr	80	48	May	83	54	Jun	57	46
Month	Kaptalamwa (%)	Kaplelach (%)																	
Feb	63	36																	
Mar	43	62																	
Apr	80	48																	
May	83	54																	
Jun	57	46																	

● CHV から施設へのリファー数



リファー数の増加が、直接 CHV が自分自身の役割を遂行できていることに直結するわけではないが、必要時に CHV が担当地域の住民と保健医療施設をつなぐ役割を果たすことは、彼らの大きな役目であり、「家庭訪問→健康相談→必要と判断した際、保健医療施設へ繋ぐ」という一連の流れは、コミュニティーレベルでヘルスシステムが機能しているかどうかを図る目安となるため、リファー数を指標としている。

なお、4月のカプレラッチのリファー数はそのうちの17件が発熱によるものであり、この時期（季節の変わり目）に流行した風邪に起因するものと考えられる。

● CHV が健康教育を実施する回数

この5か月間は、HANDS スタッフ、保健省職員（CHEW 含）が中心・手本となって、学校並びに地域健康教育を実施。

- 2～3月（1st Semester）/7校
- 5～6月（2nd Semester）/3校
- 学校保健教員会議/回/Quarterly（6月）

本年度後半は上記活動を参考に、CHV 自らが担当地域において、健康教育を実施できるよう Monthly Dialogue Day, CHV 研修等を通じて支援予定であり、県保健行政を中心に CHU（CHEW、CHC、CHV）が機能し、学校やコミュニティーなどにおいて、保健活動が住民主体で実施されるよう働きかける予定。また彼らの活動の一助となる携帯可能な保健に関する啓発教材を開発中。

【成果 2】ケリチョー県保健局から CU へのモニタリング体制及び情報利活用が改善される。

【指標と現状】

- CHV から CHEW へのレポート報告の回数 4 半期に 1 回以上

CHV のレポート提出率は前述のとおりで、今後は各 CHV が毎月または 2 か月に一度は最低レポートを報告するよう対策を検討し、徹底する。

- 保健行政関係者会議の実施回数 年間 8 回以上の開催

本 PJT は、県保健局長や県公衆衛生官長と緊密に協議、報告を行いながら進めている。保健省職員（CHEW 含）との会議は月/回（年 12 回）、JC 会議は、1 回/ Quarterly 開催予定である。

	<ul style="list-style-type: none"> ● CHEW のモニタリングレポート報告の回数 年間 8 回以上報告 現在保健省を中心にモニタリングレポート開発が行われ、8 月末に完成予定。その結果をもって使用（報告）方法、回数 of 徹底等を協議する。 <p>【成果 3】既存の CU においてコミュニティが健康問題を理解し、解決策を検討することができる。</p> <p>【指標と現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● CHV と関係者の会議実施回数 4 半期に 1 回以上 Monthly Dialogue Day を必ず月/回（年 12 回）開催。 ● コミュニティにおけるアクションプランの有無、およびアクションデーの実施回数 4 半期に 1 回以上 <p>5 月に実施した TOT Training for CHEW のフォローアップ活動として、参加した CHEW には、研修後 90 日以内に担当地域内でのトイレ利用の啓蒙・促進・（住民による）建設等が課せられた（CHEW5 名×10 箇所=50 箇所）。この活動を地域のアクションデーと結び付け実施（7 月末で終了予定）。</p>
(4) 今後の見通し	<p>1 年次は引き続きケリチョー・イーストサブカウンティ内ソイン地域において、昨年 JICA 草の根技術協力事業で設立した 2 つの Community Unit (以下 2CU) にて、CHW、CU 及び地域住民、県保健行政の能力強化を図り、コミュニティが主体となって健康問題を解決する持続的なヘルスケア・システムの構築をめざし活動する。</p> <p>2 年次以降は 2CU における 1 年次の経験を踏まえ、ソイン地域の他地区、ケリチョー・イーストサブカウンティの他地域、及び隣接するケリチョー・ウエストサブカウンティの他地域を候補に、同様にして CU を設立し、新たな CHV を育成する。</p> <p>現在、新たな CU 候補地、その運営・サポート方法、スタッフ割り当て等を保健省関係者と協議中であり、持続可能な CU 設立をめざす。</p>